

社会情勢の変化にかかる 数値データ

目次

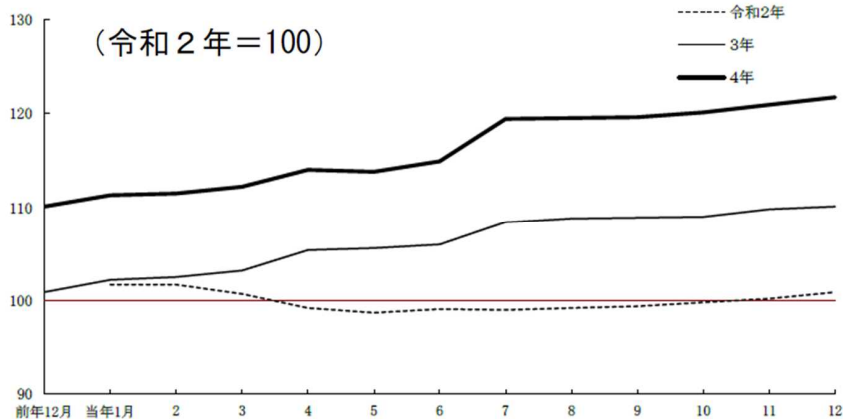
- 1 肥料・飼料・資材高騰の状況
- 2 食料自給率の推移
- 3 物価（食料品）の推移
- 4 田園回帰、地方移住への動き
- 5 消費傾向の変化
- 6 有機農業、環境創造型農業の実施状況
- 7 気候変動

1 肥料・飼料・資材高騰の状況

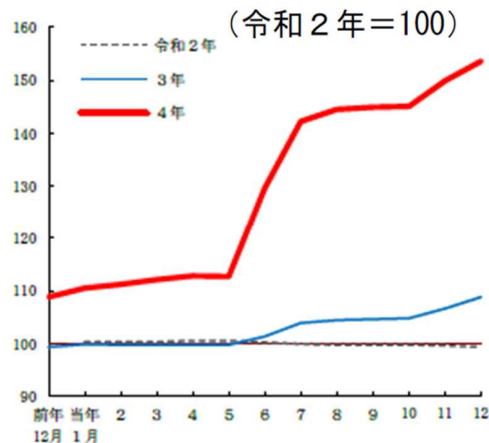
生産資材の総合的な価格指数は、令和2年末以降上昇しており、令和4年平均で116.6(令和2年=100)。

肥料については、令和4年6月頃以降急激に上昇しており、令和4年平均で130.8(令和2年=100)。

農業生産資材価格指数



農業物価指数(肥料)

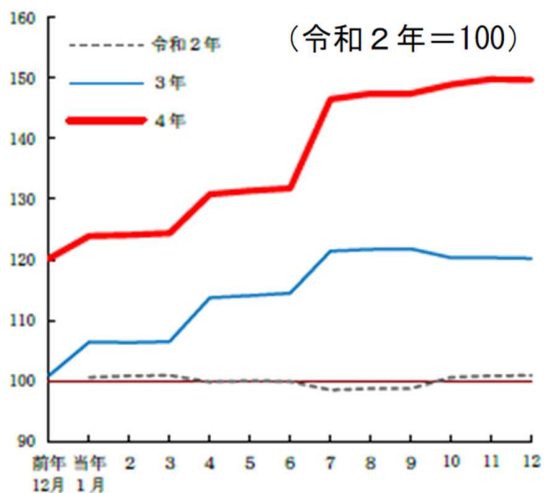


【農水省(令和4年農業物価指数)】

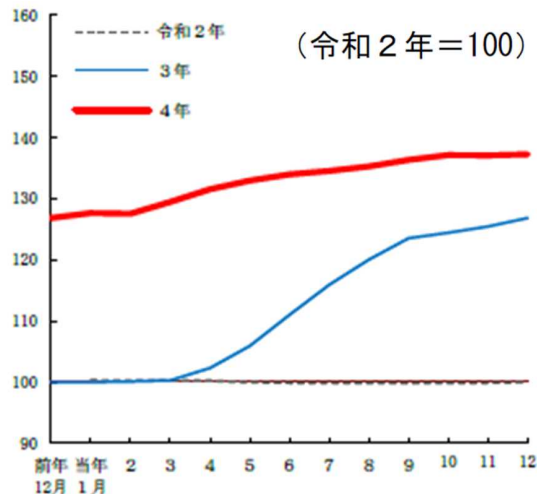
飼料については、令和3年1月以降大きく上昇しており、令和4年平均で138.0(令和2年=100)。

建築資材については、令和3年4月以降に大きく上昇しており、令和4年平均で133.3(令和2年=100)。

農業物価指数(飼料)

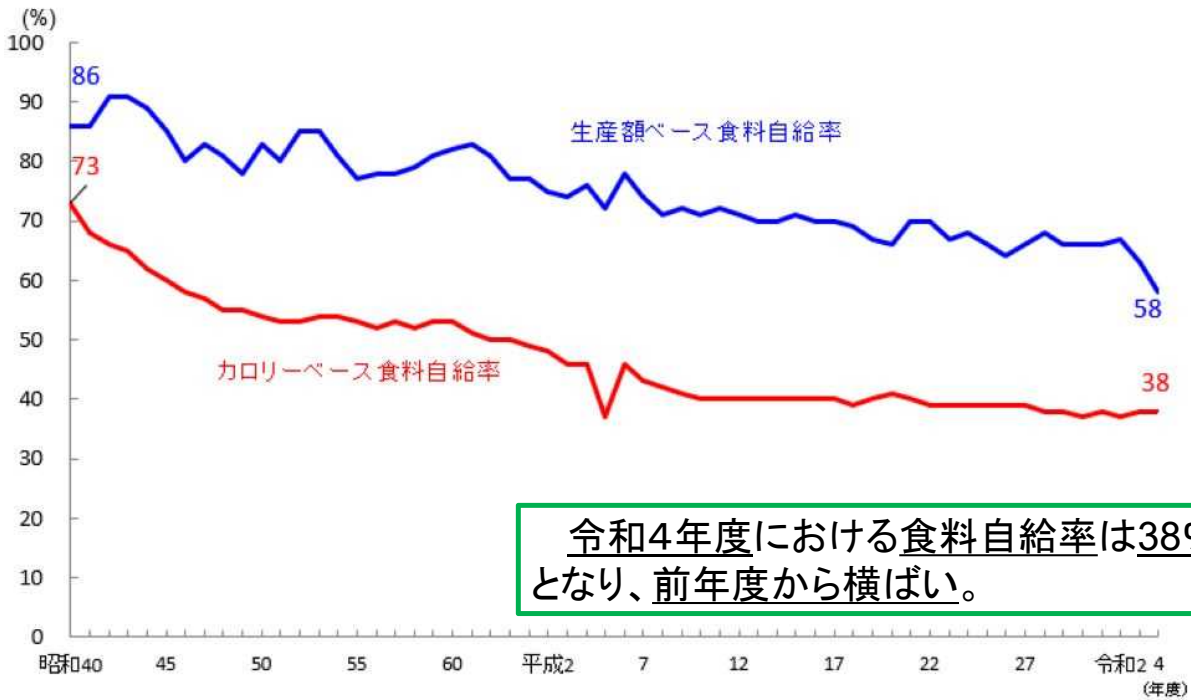


農業物価指数(建築資材)



【農水省(令和4年農業物価指数)】

2 食料自給率の推移



【農水省(HP)】

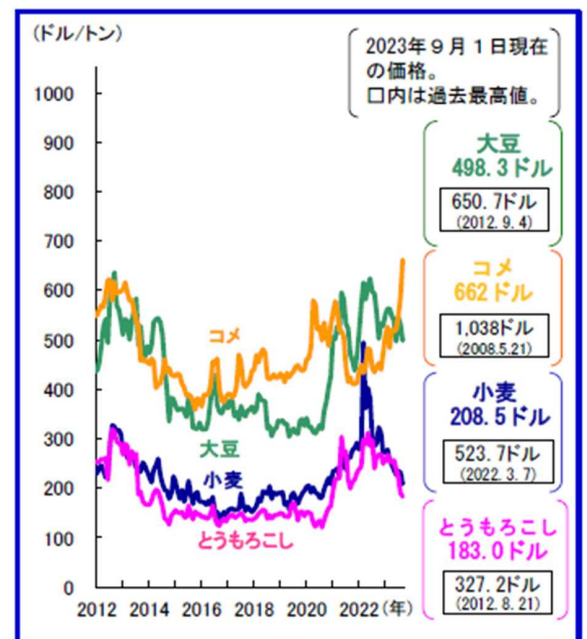
3 物価（食料品）の推移

(1) 穀物等の国際価格の動向

2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年に入り、ウクライナ情勢が緊迫化する中、小麦は史上最高値を更新したが、4者協議による輸出再開などにより侵攻前の水準まで低下。

コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制等から上昇。

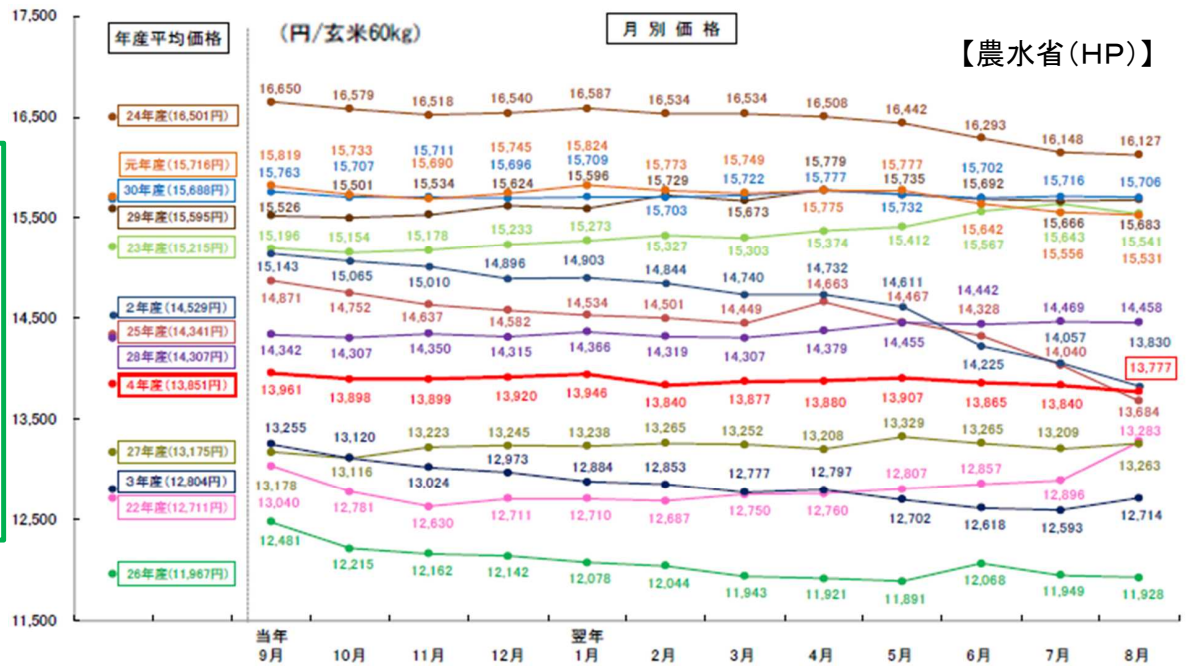
穀物等の国際価格の動向



【農水省(食料安全保障月報)】

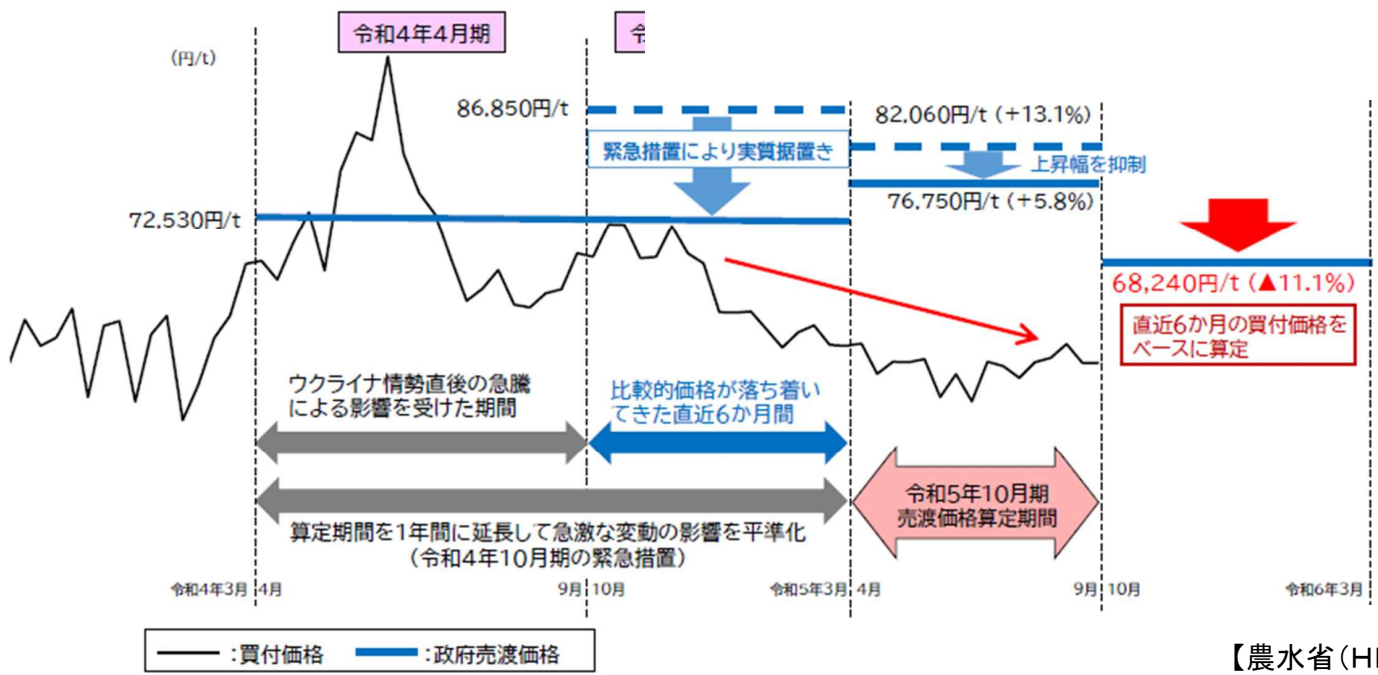
(2) 米の相対取引価格

令和4年産米の
令和5年8月の相
対取引価格は、全
銘柄平均で13,777
円/60kg
年産平均価格は
前年産+1,047円/
の13,851円/60kg



(3) 小麦買付価格

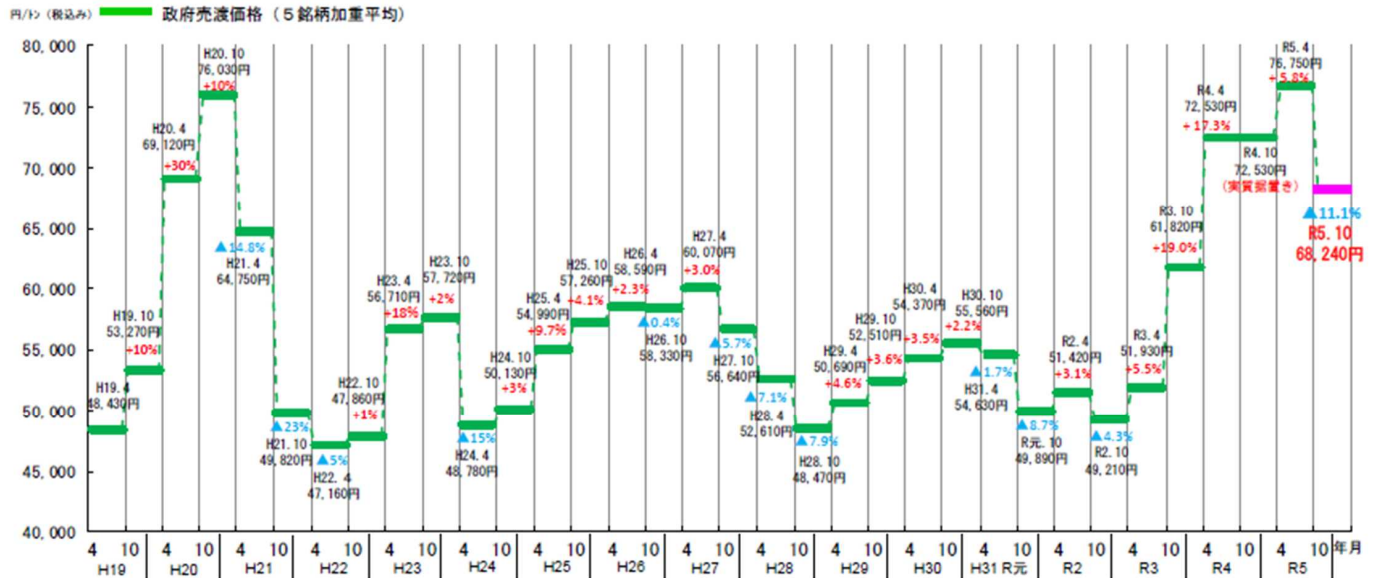
ウクライナ情勢を受け、令和4年3月以降急騰したものの、6月以降は下降し、概ねウクライナ侵攻前の水準まで低下。



(4) 小麦の政府売り渡し価格

小麦の買付価格の高騰により、令和4年4月期は、72,530/トンで、令和3年10月期に比べ17.3%の引上げ。

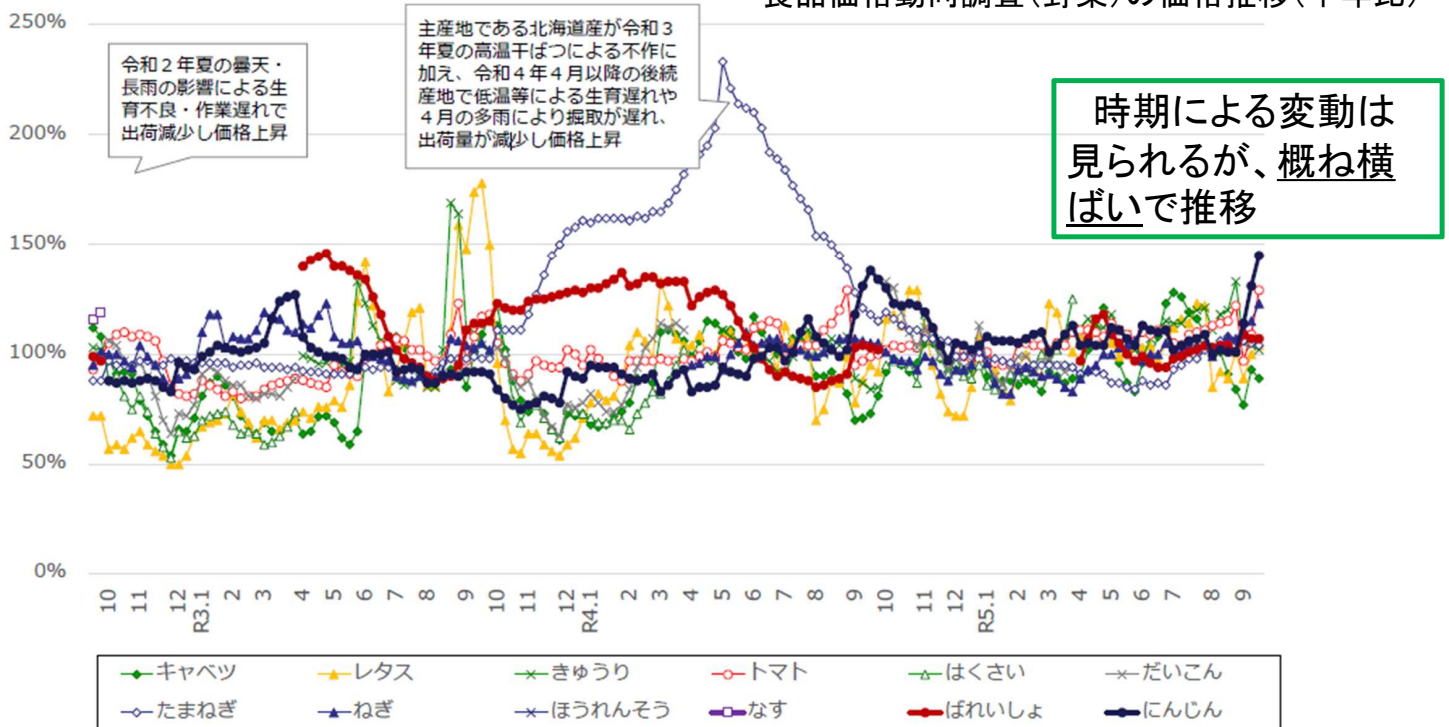
【農水省(HP)】



注：平成25年10月期以前は、消費税5%込みの価格であり、平成26年4月期以降は、消費税8%込みの価格である。

(5) 価格動向【野菜】

食品価格動向調査(野菜)の価格推移(平年比)

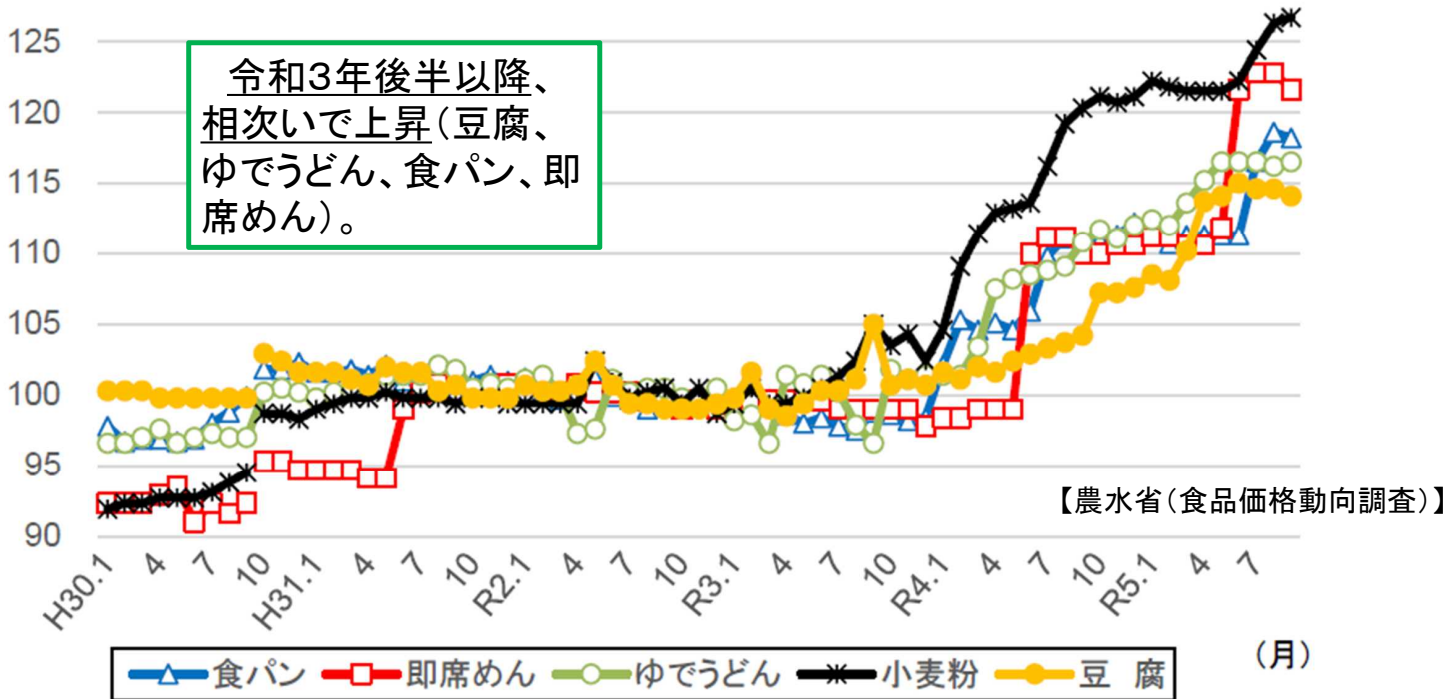


注：平年比とは、食品価格動向調査業務による調査価格の過去5年平均価格と比較したものである。

【農水省(食品価格動向調査)】

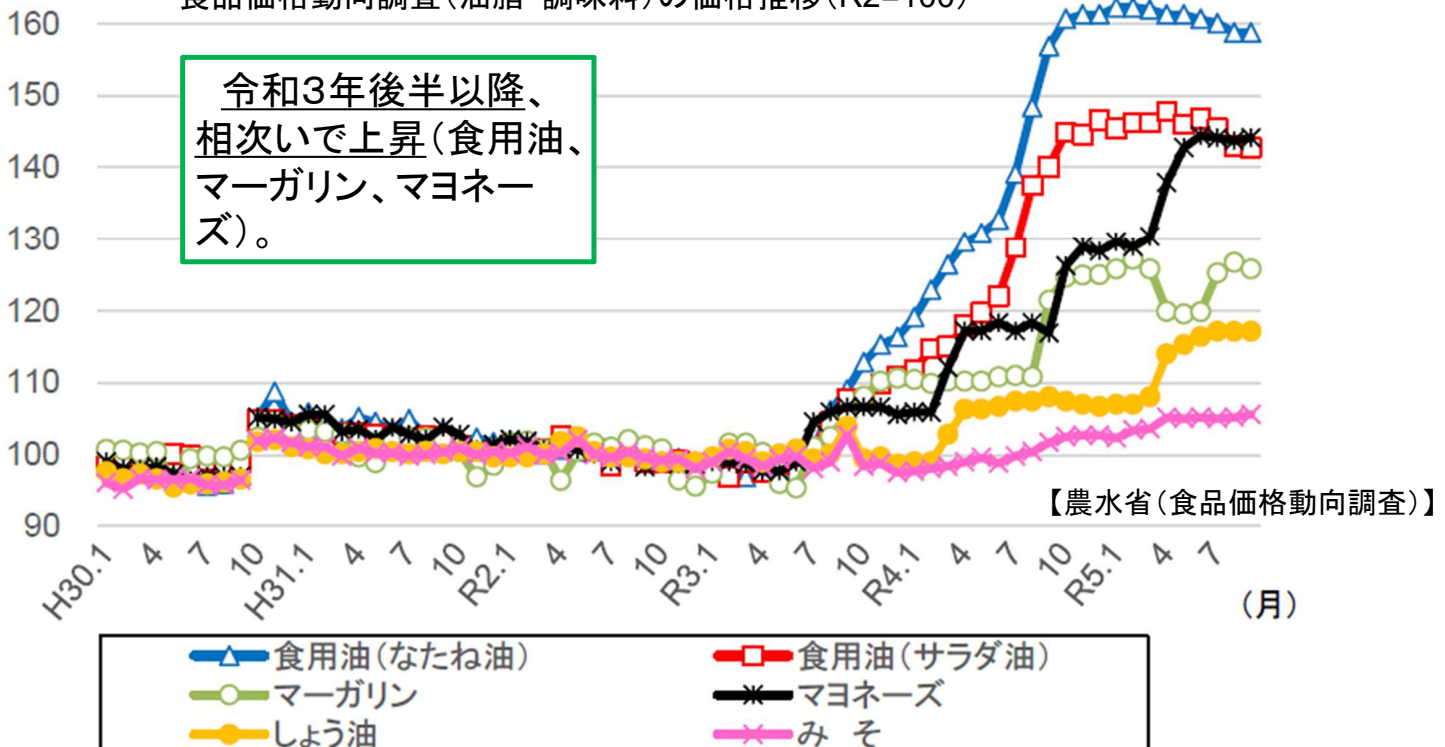
(6) 価格動向【加工食品（小麦・大豆加工品）】

食品価格動向調査(小麦加工品・大豆加工品)の価格推移(R2=100)



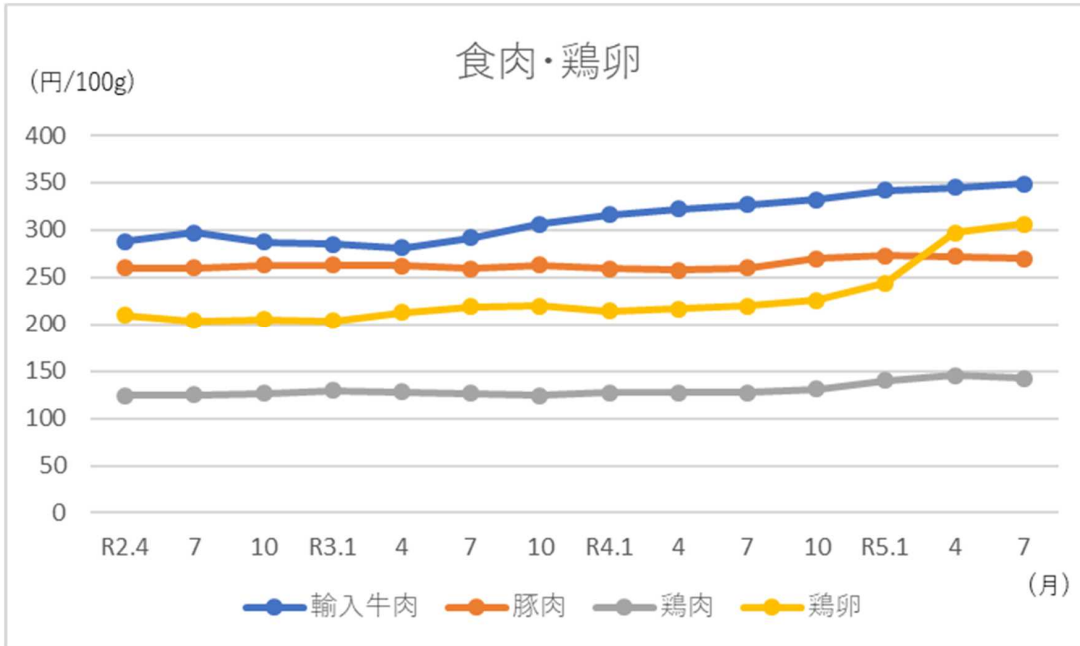
(7) 価格動向【加工食品（油脂・調味料）】

食品価格動向調査(油脂・調味料)の価格推移(R2=100)



(8) 価格動向【食肉・鶏卵】

食品価格動向調査 全国平均小売価格

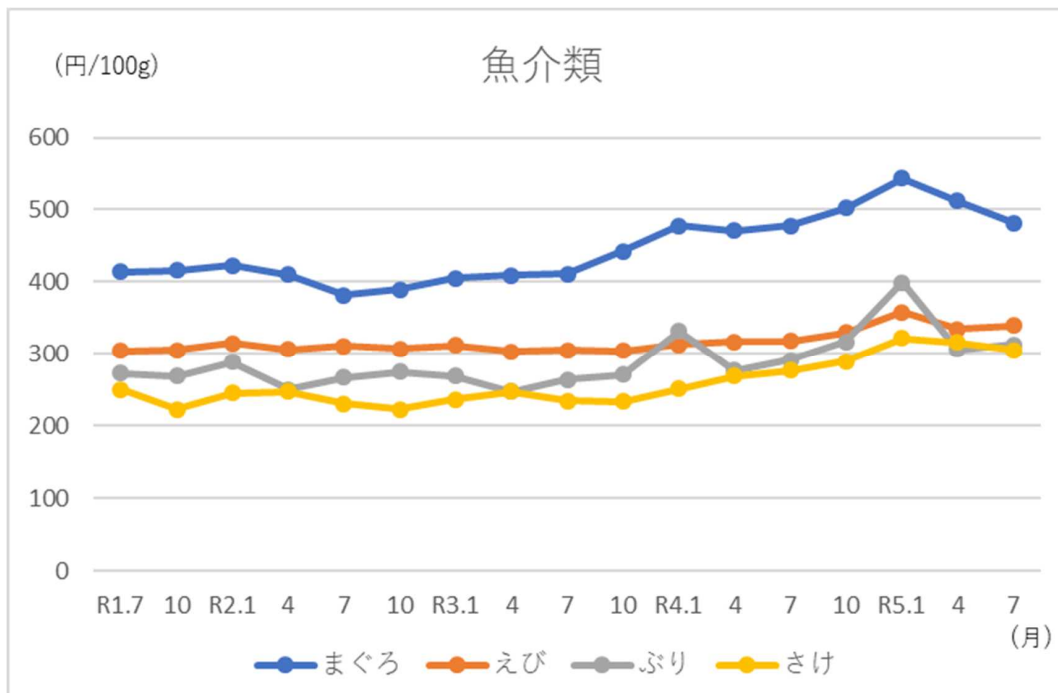


輸入牛肉は令和3年以降、緩やかに上昇
 鶏卵は鳥インフルエンザの影響で令和5年1月以降大幅に上昇
 豚肉、鶏肉については、ほぼ横ばいで推移

【農水省(食品価格動向調査)】

(9) 価格動向【魚介類】

食品価格動向調査 全国平均小売価格

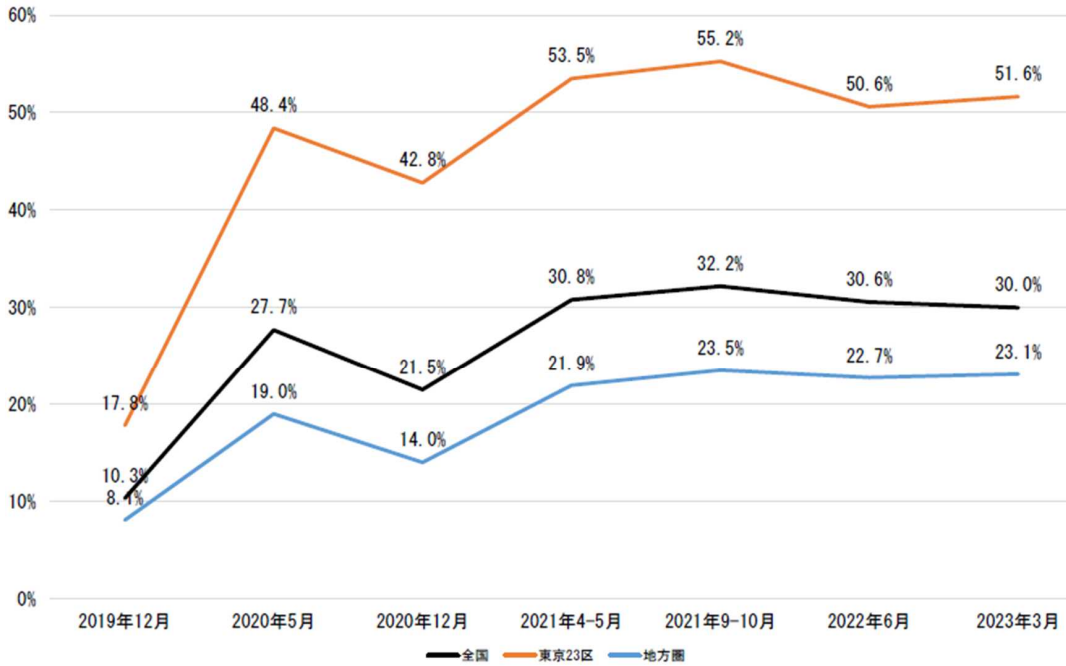


令和3年以降、緩やかに上昇。

【農水省(食品価格動向調査)】

4 田園回帰、地方移住への動き

(1) テレワークの実施率



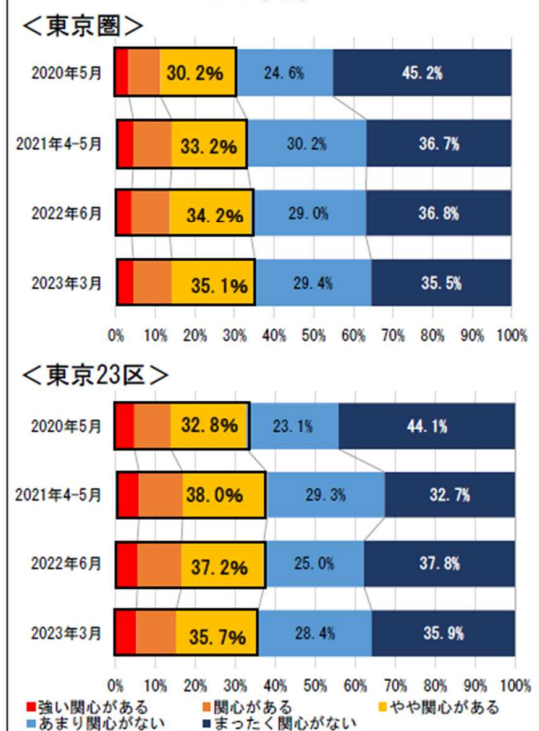
新型コロナウイルス感染拡大以降増加し、令和3年4-5月調査以降は横ばい

※働き方に関する問いに対し、「テレワーク（ほぼ100%）」、「テレワーク中心（50%以上）で定期的にテレワークを併用」、「出勤中心（50%以上）で定期的にテレワークを併用」、「基本的に出勤だが不定期にテレワークを利用」のいずれかに回答した人の割合

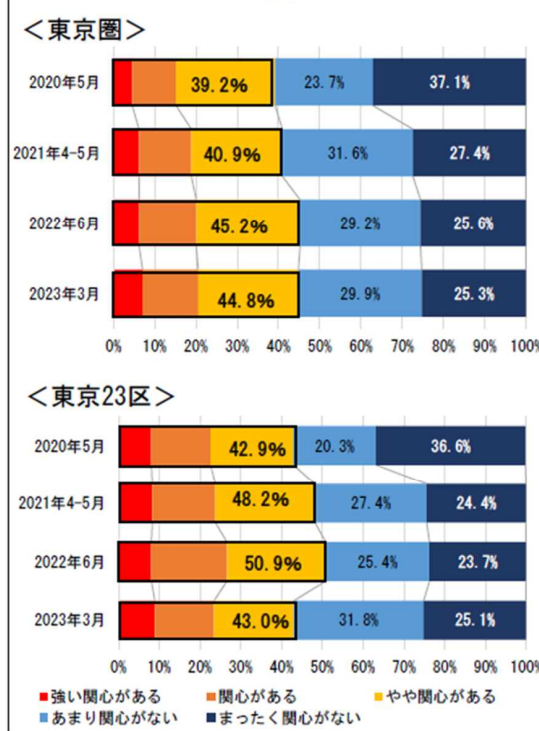
【内閣府（新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査）】

(2) 地方移住への関心

全年齢



20歳代



新型コロナウイルス感染拡大以降、若い世代を中心に関心が高まっている。

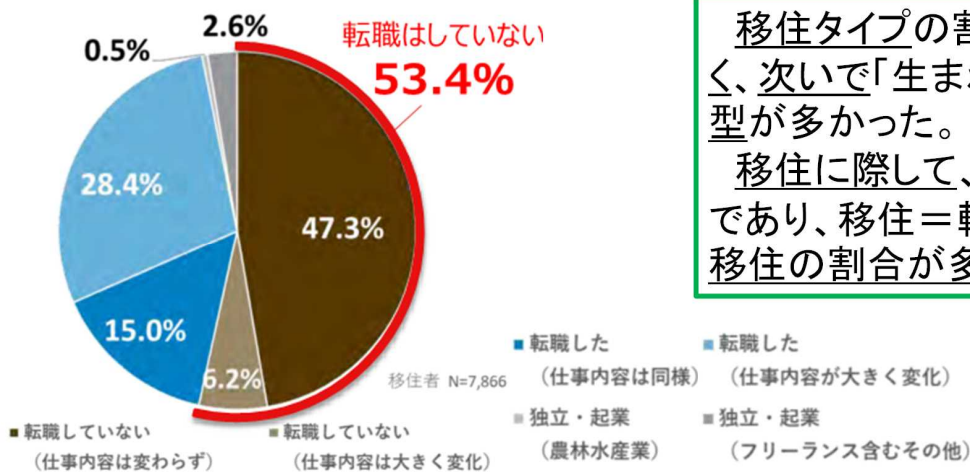
【内閣府（新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査）】

(3) 移住経験者の移住タイプ、転職・職務変更

■ 移住者が経験した移住タイプ



■ 移住に伴う転職・職務変更



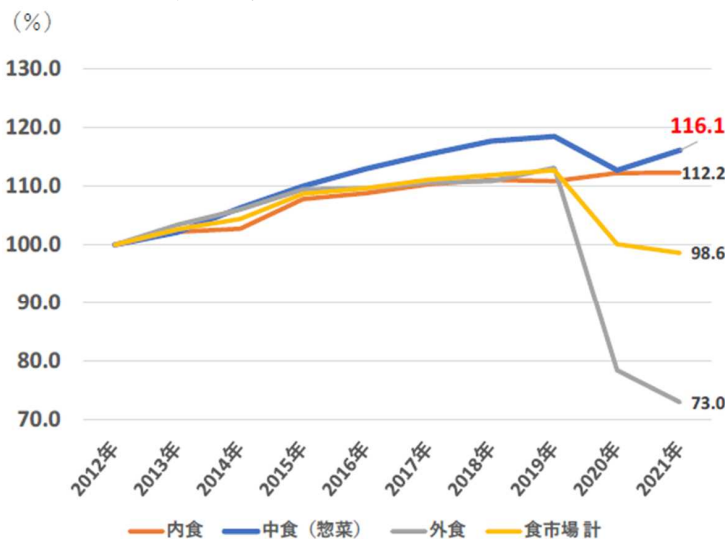
移住タイプの割合は、Iターンタイプが最も多く、次いで「生まれ育った市町村」へのUターン型が多かった。
 移住に際して、転職経験のない人は53.4%であり、移住＝転職ではなく、転職を伴わない移住の割合が多いことが確認された。

【パーソル総合研究所(就業者の地方移住に関する調査報告書)】

5 消費傾向の変化

(1) 内食・中食・外食の推移

食市場推移(2012年比)



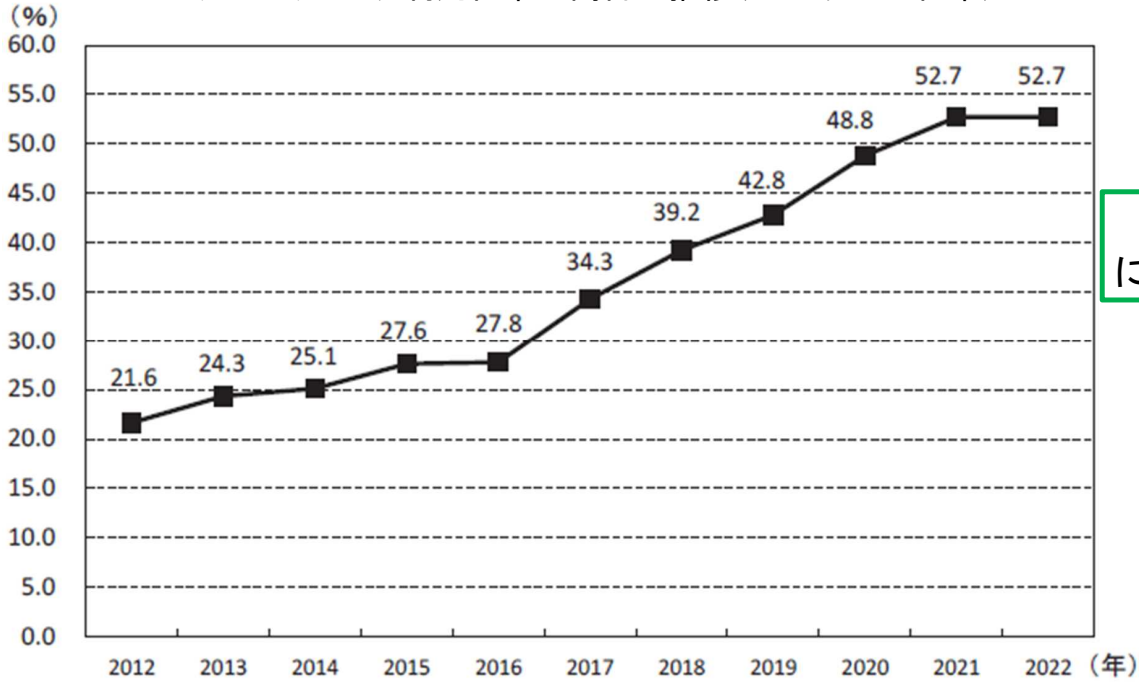
コロナ禍で食市場全体が縮小するなか、中食市場が成長

	内食	中食(惣菜)	外食	食市場計
2012年	32兆4,669億円	8兆7,132億円	23兆2,217億円	64兆4,018億円
2021年	36兆4,416億円	10兆1,149億円	16兆9,494億円	63兆5,059億円
12年-21年比	112.2%	116.1%	73.0%	98.6%

※発刊時点で2022年外食市場規模(7月頃)及び内閣府「国民経済計算」2022年分統計(12月頃)が未発表のため、2021年数値で比較

(2) ネット販売利用世帯割合の推移

ネットショッピング利用世帯の割合の推移(二人以上の世帯)

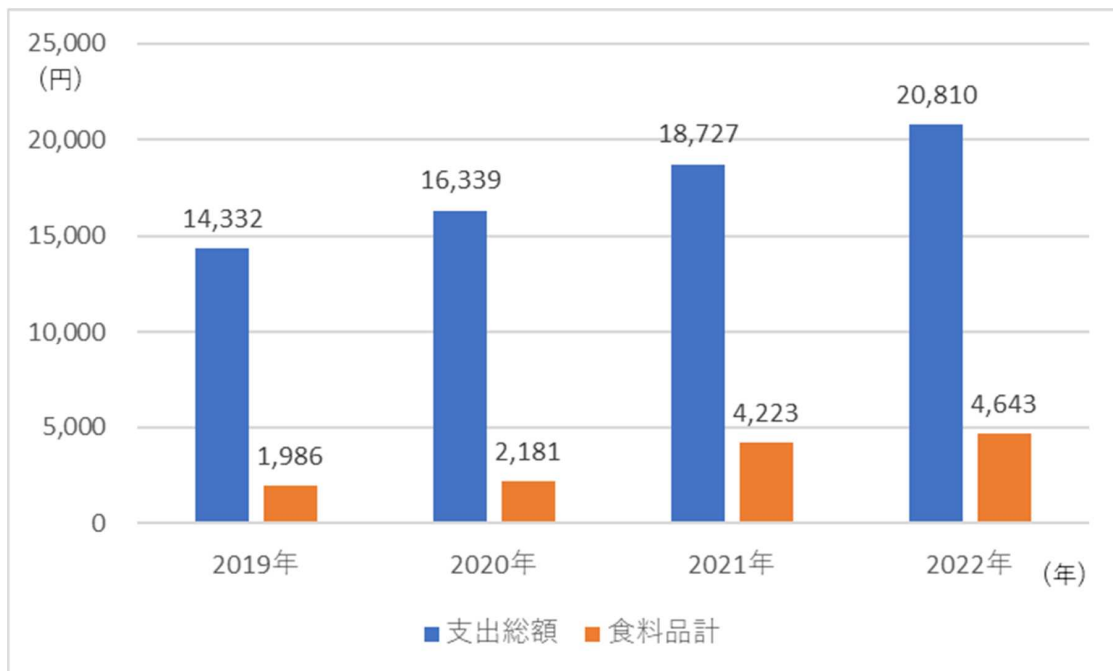


年々増加し、令和3年に初めて50%を超えた

【総務省(家計消費状況調査)】

(3) ネット販売額の推移

インターネットを利用した支出総額と内食料品の比較(1ヶ月あたり)

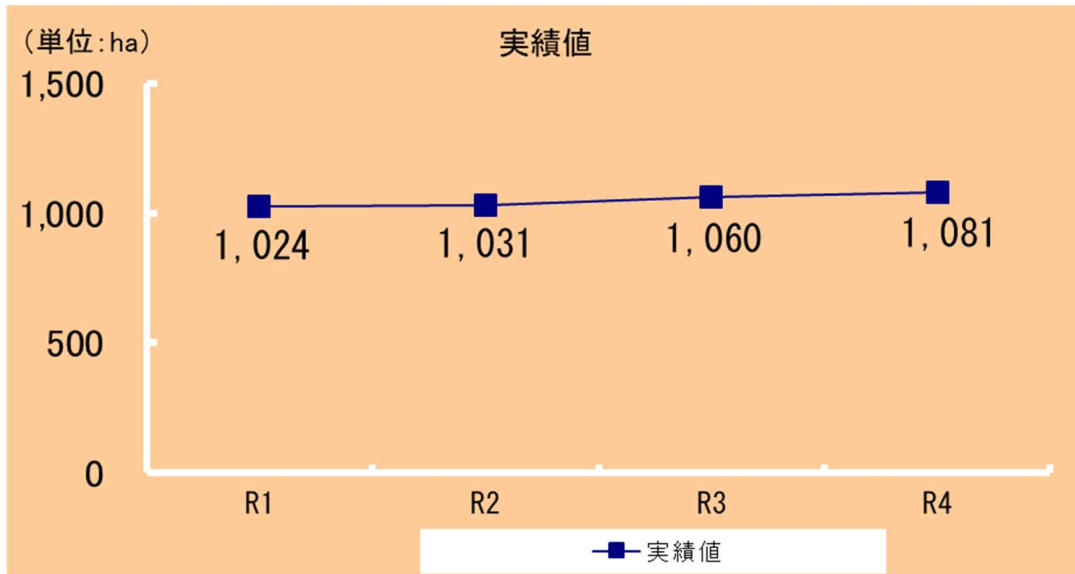


支出総額は年々増加し、その中でも食料品の占める割合が増加。

【総務省(家計消費状況調査)】

6 有機農業、環境創造型農業の実施状況

(1) 有機農業実施面積（兵庫県）の推移



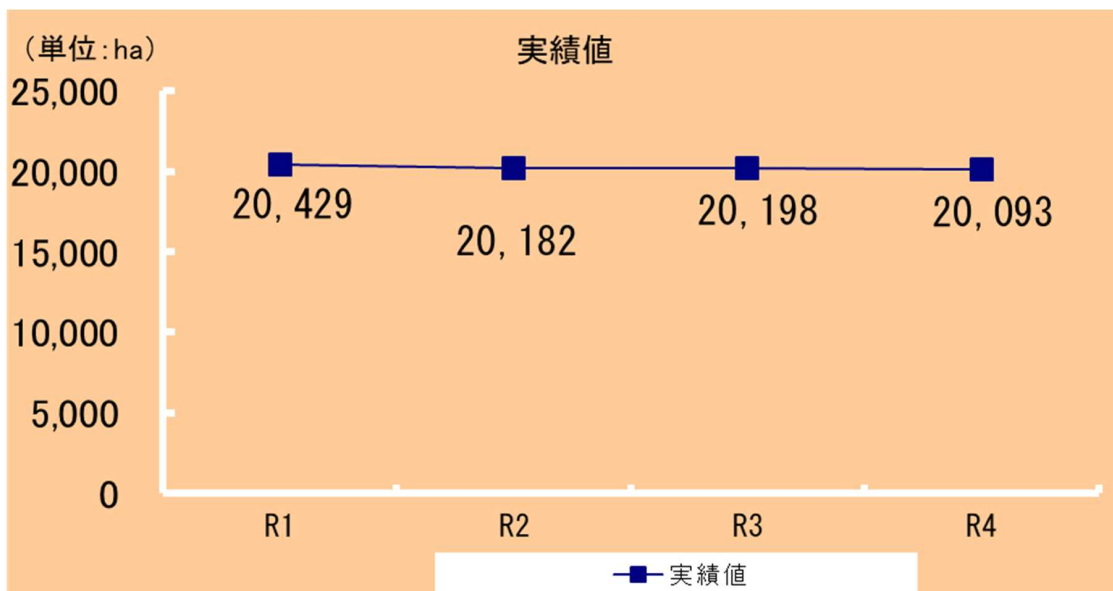
毎年着実に増加

【参考】
兵庫県耕地面積72,400ha(R4)

【兵庫県調べ】

(2) 環境創造型農業※1実施面積（兵庫県）の推移

※1 環境創造型農業: 有機質資材の投入による「土づくり技術」を基本に、化学肥料や化学合成農薬に過度に依存しない「化学肥料低減技術」と「化学合成農薬低減技術」を加えた3技術を同時に導入する持続的な農業生産方式



近年横ばい

【参考】
兵庫県耕地面積72,400ha(R4)

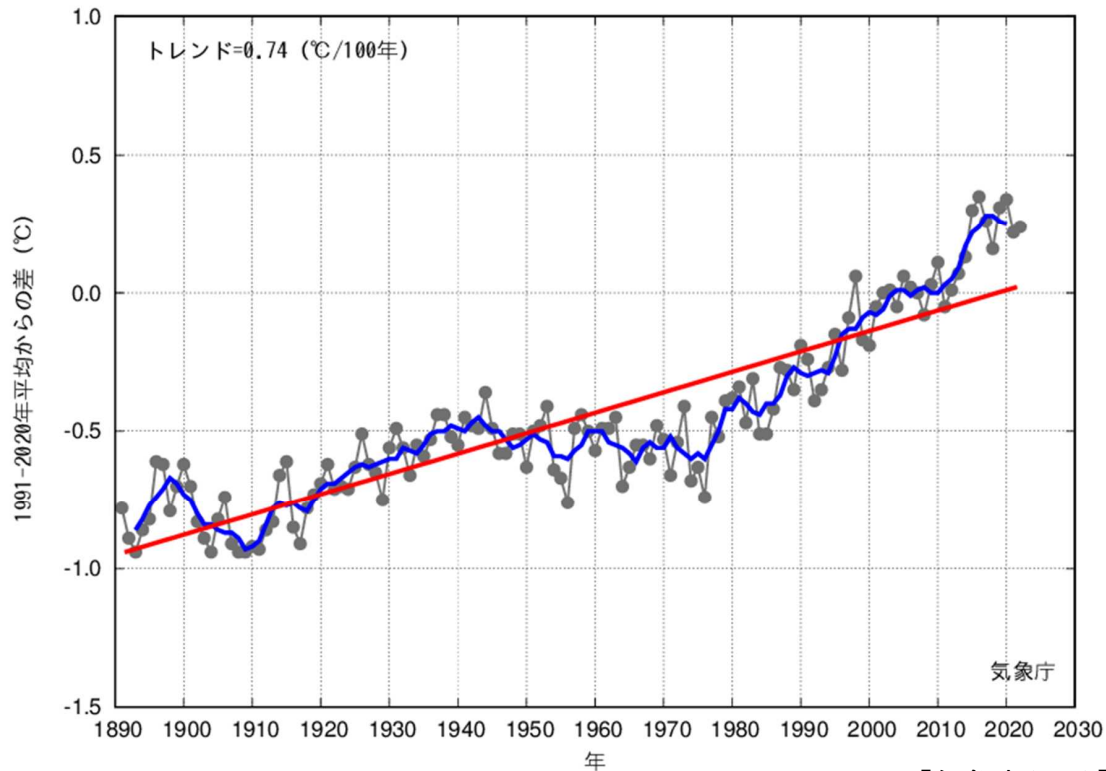
【兵庫県調べ】

7 気候変動

(1) 気温上昇

世界の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、100年あたり0.74°Cの割合で上昇。

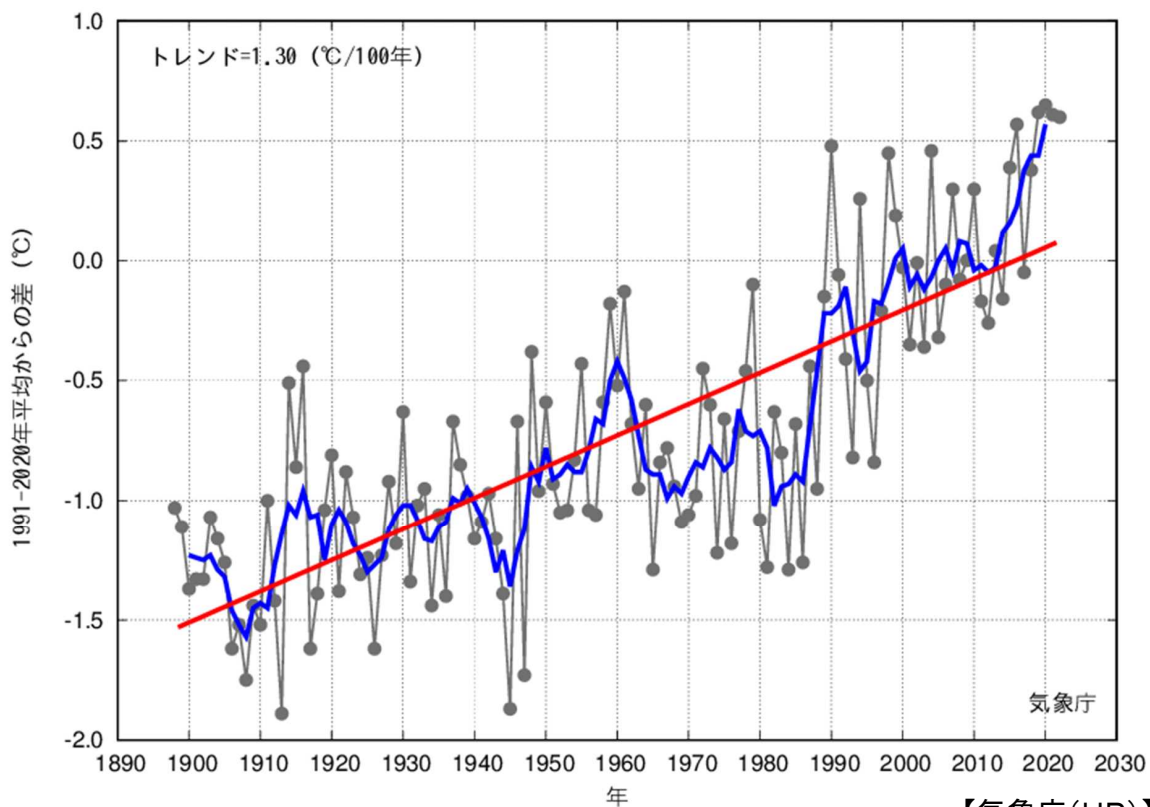
世界の年平均気温偏差



【気象庁(HP)】

日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、世界平均を上回る100年あたり1.30°Cの割合で上昇(世界:0.74°C上昇)。

日本の年平均気温偏差

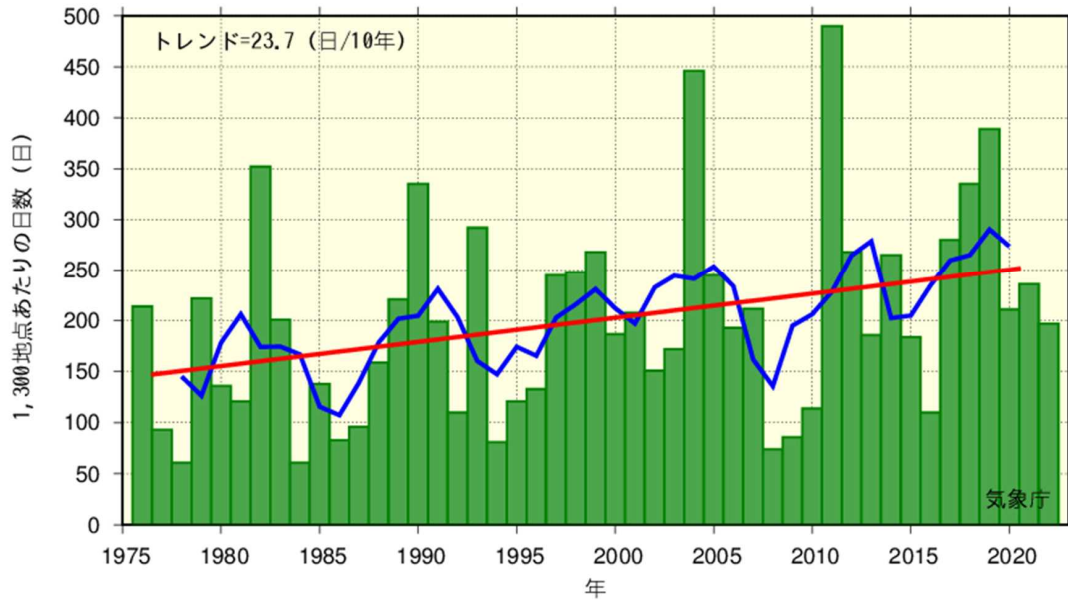


【気象庁(HP)】

(2) 日降水量200mm以上の年間日数

直近10年間(2013年～2022年)の全国の日降水量200mm以上の日数は、統計期間の最初の10年間(1976～1985年)約1.5倍に増加(約160日/年⇒約239日/年)。

[全国アメダス] 日降水量200mm以上の年間日数



【気象庁(HP)】